［活動報告］

# 「漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」クラウドファンディング事業報告

三角　太郎，堀野　陽子，菊地　良直

## 1．はじめに

当館では，2019 年度から 2020 年度にかけてクラウドファンディング事業により資金を調達し，漱石文庫のデジタルアーカイブ化を行った。事業の正式名称は「漱石の肉筆を後世へ！漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」であり、漱石の肉筆にフォーカスしたものとなっている[1]。東北大学の「漱石文庫」は，文豪夏目漱石（慶応 3（1867）- 大正 5（1916））の日記･ノート･試験問題・原稿・手紙などの自筆資料および旧蔵書から成るコレクションである。これは漱石の書斎に遺されていた文書や蔵書をまとめて受け入れたものである。夏目漱石の自筆原稿や書簡はかなりの量が流通し，文学館や大学などに所蔵されている。しかし，それらの多くは漱石が他人に対して発信した言わば「よそゆき」のものである。対して東北大学の漱石文庫は，漱石の手許にあった，漱石の息遣いが残る生々しい資料であり,「生の思索の過程が遺されている」という点でユニークなものとなっている。手帳や思索のメモのほか，蔵書にも多くの書き込みがあり，書き留めて，また考えて，と言う思考の過程が残っている。漱石作品の成り立ちに深く関係するため，文豪・夏目漱石の重要性が，そのままこの「漱石文庫」の重要性であると言っても過言ではない。

これらの資料は漱石が亡くなってから 20 年以上も新宿の漱石旧宅に保管されていたが，漱石の高弟の小宮豊隆が館長を勤めていた東北帝国大学附属図書館で，昭和 18 年から 19 年にかけて受け入れた。その後も漱石関連の資料の収集追加を行い，現在の漱石文庫ができあがった[2]。

東北大学では，漱石文庫を最重要資料として，貴重書指定し，温湿度管理を行った書庫で厳重に保管している。それでも経年劣化は避けられない。例えばイギリス留学時の手帳であるが，背が割れかけていて，開くとバラバラになりそうな状態である。中は鉛筆書きだが，字が薄く，少し擦れたらすぐに消えそうである。他のメモ類などでも，紙もインクも悪く，かなり劣化しているものも多い。資料によってはインクの部分が酸性化し穴が空いているものもある（インク焼け）。蔵書中の書き込みも，薄い鉛筆や朱字の書き込みなど，いつ読めなくなるかわからない状態のものも多い。漱石研究における第一級の資料ではあるが，原資料の閲覧利用は困難で，早急に対策を講じる必要を感じていた。

図 1. プロジェクトの Web ページ

それでは「現状で最善の対策は何か？」と考えると，最初に候補としてあがってくるのは，デジタルアーカイブ化である。漱石文庫については，仙台市の事業によりマイクロフィルムを作成済みであり，また一部資料はデジタル化し公開もしている。しかし十数年前のデジタルアーカイブ初期の技術のものであったことから，解像度等に限界があった。現在の技術であれば，肉眼で見るよりも詳細に資料を確認できる高精細画像をインターネットにより提供することも可能となってきている。再デジタル化・公開すれば，原資料の閲覧

1　https://readyfor.jp/projects/soseki-library（2021/2/3 確認）
2　漱石文庫については，以下が詳しい。
木戸浦豊和 . “ 漱石文庫について ”. 文豪・夏目漱石 : そのころとまなざし . 江戸東京博物館 , 東北大学編 . 朝日新聞社 , 2007.9, p.129-137

も最低限に抑えることができるだろうし，多くの方が漱石に触れることができるようになる。だが，そのためには，まとまった予算が必要であり，現在の附属図書館の通常予算では，デジタル化費用の捻出は困難であった。

## ２．自主財源強化のとりくみ

国立大学でいう自主財源とは，運営交付金，授業料収入，病院収入等の基本的な財源以外の収入を指す。近年，国立大学でも自主財源の重要性が増してきている。図書館で考えられるものとしては，寄付金や外部助成金，グッズ販売，ネーミングライツ，所蔵資料の掲載料などがある。当館では，以前から狩野文庫マイクロフィルムやオリジナルグッズを有料で頒布してきた実績があるが，2018 年頃からあらためて自主財源強化にむけた検討を開始した。その結果として実施したのが「図書館のみらい基金」(2019 年 3 月設置) であり，そして本稿テーマであるクラウドファンディング「漱石の肉筆を後世へ！漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」である。

「クラウド」という言葉を最近は色々なところで目にする。システムの場合は，クラウド＝Cloud(雲)だが，クラウドファンディングはクラウド＝Crowd(群衆)で，意味が異なる。様々な人に支援してもらい一人では難しい事業を実施する仕組みで，容易に多くの人と広くつながることができるインターネットをベースとしたものとなっている。

東北大学内でもクラウドファンディングの制度の整備がすすめられ，2019 年 5 月に「国立大学法人東北大学におけるクラウドファンディング事業の実施に関する要項」[3] が定められた。制度としては，各部局等で独自にクラウドファンディングサービスの会社と委託契約して実施することも可能であり，また東北大学として業務提携する会社のサービスを用いて実施することも可能である。本学で最初の実施例である，理学部の事例は, READYFOR 株式会社 (以下, READYFOR) のサービスを用いて実施した。現在は東北大学と READYFOR は業務提携しているが，理学部は業務提携前に独自で契約を結んだ上で実施している [4]。当館のクラウドファンディング事業も，READYFOR のサービスによるが，東北大学と READYFOR の業務提携後に実施した点が異なる [5]。附属図書館は学内制度整備の前から，本部の担当部署に実施可能性について相談していたこともあり，業務提携後のキックオフ事業として実施することになった。キックオフ事業としては，当館と，東北大学病院栄養管理室による「東北大学病院オリジナル「野菜を食べる副菜レシピ」を広めたい！」[6] がある。当館は寄付型，病院は購入型とタイプは異なる。寄付型は事業に対する寄付で寄付金控除がある。購入型は物品や役務を購入する形となっていて，寄付金控除はない。

## ３．事前準備

事前相談からプロジェクト公開，支援募集開始までは以下のようになっている。

- 8/22 (木) 本部社会連携課より事業のゴーサイン READYFOR から日程調整依頼があるとのこと
- 9/9 (月)　電話会議日程調整 (READYFOR より)
- 9/18 (火)　第 1 回電話会議<br>東北大学側から事業プラン説明
- 9/24 (火)　ページ・広報力ヒアリングシート提出
- 9/25 (水)　第 2 回電話会議<br>提出資料にもとづき, 目標金額, ページ内容等について相談
- 9/27 (金)　READYFOR より追記原稿の依頼
- 10/4 (金)　当館から追記原稿提出⇒ページ反映
- 10/7 (月)～ 最終稿の作成，調整
- 10/15 (火)　最終稿確認，事前広報の確認，相談
- 10/30 (水)　公開前最終テレビ会議
- 11/5 (火)　記者会見，13：30 萩ホール会議室

9 月 18 日の第 1 回の打ち合わせでは，東北大学側からプロジェクトの趣旨，支援プランについて説明した。支援プランとしては，他の事業での獲得額を参考に，総額 500 万円程度が最大と考えた。費用 500 万円，300 万円, 200 万円の予算の事業計画を立て, それを松コース, 竹コース，梅コースとして提示した。費用の差はデジタルアーカイブ化するコンテンツの量の差である。それに対して，READYFOR より，漱石文庫の現在の利用

3　http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00002684.html（2021/2/3 確認）
4　東北大学理学部「ぶらりがく for ハイスクール」を開催！ https://readyfor.jp/projects/burarigaku（2021/2/3 確認）
5　【クラウドファンディング】“東北大学 ×READYFOR” 本格始動！ http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/japanese/topics/topics201911.html（2021/2/3 確認）
6　https://readyfor.jp/projects/tuh01（2021/2/3 確認）

状況，貴重性，デジタル化する意義，知名度，データベース公開後の想定利用者像などについてのヒアリングがあった。READYFORからのアドバイスでは，Web広報はそれぞれの機関のWebサイトを充実させるよりも，プロジェクトのページに情報を集中し，そこに足をとめてもらう方が良い，他のWebサイトにナビゲートすると，プロジェクトページから離れてしまって戻ってこない。また返礼についても相談した。漱石文庫の展示は良さそうだが，仙台以外での開催は難しいし，無理しなくても良い。解説付きの報告書を作るのも良い。寄付型の場合は対価性のある販売品は難しい，とのことであった。その上で9月24日までに当館から①プロジェクトページの素案，②アプローチ先リスト作成を提出することとなった。アプローチ先のリストによりターゲット層を決めていく必要がある，ターゲット層によって響くアピールポイントが異なるし，そのポイントを見極めて返礼を考えるのが良いとのことであった。

翌週の9月24日までにプロジェクトページの素案作成，アプローチ先リスト作成を行ない，9月25日の打合せでは，プロジェクトページの素案を元に議論を進めた。READYFORからはヒーロー的な資料があるとアピールしやすい，資料はいくつかピックアップして漱石文庫の魅力を示せると良い，他館所蔵の漱石関係資料との相違点も強くアピールして欲しい，危機的な状況にある資料の写真も撮影可能であれば示すと良いだろう，とのことであった。

目標金額については，200万円をファーストゴールとしてはどうかとのことであった。200万円のプランは，自筆資料部分のデジタル化である。ファーストゴール達成後のセカンドゴール（400万円程度）も準備しておいても良いだろうとのことであった。寄付募集期間は，２カ月が妥当であろう，期間が長ければ集まるというものでもないとのことであった。

クラウドファンディングの支援の受け入れ方法には以下の二つがある。

. All in 型の場合は，目標金額に達成しなかったとしても，集まった資金は受け取ることができる。

・All or Nothing 型の場合は，期間内に目標金額を達成した場合のみ資金を受け取ることができる。目標金額に到達しなかった場合は，申込みはキャンセルし，全額返金となる。

事業の内容によっては，一定の金額が集まらないとスタートができないため，All or Nothing 型のほうが望ましい。例えば500万円の実験機械を購入するプロジェクトで，300万円しか集まらなかった場合には，300万円分だけ機械を購入することはできないので，All or Nothing 型にせざるをえない。

当館の場合は，資料のデジタル撮影のプロジェクトであったので，集まった金額分だけ撮影する All in 型で良いかと当初は考えていた。しかし READYFOR と相談したところ，ファーストゴールまでは All or Nothing 型で，その後は All in 型とするほうが望ましい，ファーストゴールは All or Nothing 型として，セカンドゴールは All in 型とするほうが支援額を延ばしやすいとのことであった。

返礼については，いくつかパターンを用意するべきで，価格帯もバラエティをもたせたほうが支援を得やすい，同じ価格帯でもイベントに来られる人，来られない人向けにパターンがあると良い。グッズはお金をかけて作成したものでも非売品であればOKとのことであった。

そのあとは，メールベースでプロジェクトページのブラッシュアップやリターン設定についての調整を行なった。READYFORのレスポンスは早く，こちらで作成したWebページ案のブラッシュアップも迅速に行なってくれた。

平行して，漱石文庫や東北大学にゆかりのある方への応援メッセージ依頼を進めた。大学関係者以外で，伊集院静氏や内館牧子氏，香日ゆら氏にメッセージをいただけたことは担当者の励みになった。

10月30日に募集開始前の最後の打ち合わせを行なった。顔写真はインパクトが大きいとのことで，夏目漱石と小宮豊隆の写真を手配し，プロジェクトページに掲載することとなった。またリターンなしのコースも追加設定することとなった。

スタートにあたっては，経験則として，最初の五日間で20％獲得できると，高い確率でそのプロジェクトは成功するのでそれを目指して欲しいとのことであった。呼び水のようなものと理解したが，ある程度の金額が集まっているプロジェクトの方が，新たな支援も得やすいとのことである，そのためには，スタートダッシュは重要，身近な人への強めの呼びかけを推奨された。

11/1（金）午前にはプロジェクトページの内容を確定させた。11/5（火）11時にプロジェクトページの試験公開，13時30分の記者会見で，いよいよプロジェクト

はスタートした。

## 4．実施体制

実施に当たっては，本館の情報サービス課を中心に各課，各分館からメンバーを集め，クラウド･ファンディングチームを立ち上げた。主査を情報サービス課長，事務局を学習支援係長とした。実際の作業分担として，問い合わせへの対応は主査および事務局，支援者メッセージへの返信はチームメンバーで分担した。回答が難しいメッセージは主査もしくは事務局で対応した。チラシ及びポスターもチームメンバーで作成した。貴重書係が漱石文庫の資料調査・写真準備などをサポートした。

図 2. チラシ（表・裏）

図 3. ポスター

## 5．募集開始

11/5 は東北大学と READYFOR との業務提携を発表する記者会見で，キックオフ事業として当プロジェクトも紹介された。寄付募集もそのタイミングにあわせて開始した。募集期限は 12/26　23 時とした。SNS 等の広報も記者会見後にスタートで，それ以前の広報は見合わせとなった。東北大学本部の設定した記者会見でキックオフ事業として大々的に広報ができるという点は大きなメリットだったが，情報の解禁時刻が設定されていて，事前の広報に制限があり，その点は不利であった。新聞等へのアプローチも記者会見後となったため，スタートが遅れた。

募集期間中は時間的にも精神的にも追われていたのか，担当者の記憶も若干曖昧である。新着情報の話題を探して，新着情報を書いて，Tweet して，問い合わせに応えて，コンタクト先を探してはコンタクトして，ということを毎日繰り返していた。夜中にふっと目が覚めて支援額を確認する，という毎日であった。支援のペースはコンスタントではなかった。キックオフ後の 5 日間で 20％の目標は達成したが，その後，新たな支援がほとんどない時期が 10 日間ほどあった。その間の担当者の精神状態はかなり悪かった。READYFOR によると，支援のペースには波があるのが普通であるらしいが，不安が日々増していった。

新着情報について，それがすぐに支援につながるわけではないが，コンスタントに発信を続けることが結果的に支援につながる，とのアドバイスがあった。漱石文庫の資料紹介の他，漱石の命日である漱石忌，クリスマスなど，様々なテーマで記事を書いた。また READYFOR のアドバイス通りにラストスパート期はカウントダウンをしながら，記事執筆もペースアップした。それほど長い記事ではなくても，裏付けとなる資料の調査で丸一日かかるようなことも度々あった。結果的に，今まであまり知られていなかった漱石文庫にまつわるエピソードを掘り起こすことができたのは良かったと考えている。

停滞していた支援が急に動き出したのは，11/19 に朝日新聞社の全国面に掲載されてからであった。直接の問い合わせも多く，あらためて全国紙の力を感じた。

11/26 にはファーストゴールである 200 万円に到達したが，動き出してからのスピードが予想よりも早かったので驚いたように記憶している。

ファーストゴール達成後は，セカンドゴール（500 万円）を設定し，All in 型に切り替えた。あとは支援いただいた分が確実に入ってくる。多少は精神的にも落ち着いたが，それでもセカンドゴールに向けて眠れない日々が続いた。

意外だったのは河北新報のインパクトである。河北新報は地方紙であるが，その記事が Yahoo! などを通して全国に広がり，Twitter で多くの人からのリツィートがあった。朝日新聞よりもインターネット上でのインパクトが大きかったのは予想外だった。

本稿末に，支援額の動きのグラフと，主な広報事項の表を載せた。最も大きく動いたのは最終日であった。最後の二日ほどのラストスパートで急激に延びた結果として，セカンドゴールの500万円にも近づいた。READYFORからは，もっとも支援が集まるのはラストスパート時期であると聞いてはいたが，ここまでとは想像していなかった。

クラウドファンディングについて，当館としても初の試みだったが，東北大学としても初に近く，走りながら考えている状態であった。READYFORは，プロジェクトの実施事業への伴走者である，と自らの立場を説明している。担当者としては，READYFORにも伴走してもらったが，しかしそれ以上に本部，特に基金係と一緒に走ったように感じている。様々な手続き等でノウハウがないことが多く，相談しながら進めた。また同窓会への広報なども密に相談しながら進めた。

手続きで特に苦慮したのは現金の受け取りであった。クラウドファンディングのシステムで，All or Nothing型の場合は，目標を達成しなかった場合には返金する。支払方法としては，クレジットカードと銀行決裁が用意されている。クレジットカードの場合は，期日までは支払予約の状態であり，目標を達成しなかった場合には引落しをキャンセルすれば良い。しかし，銀行決裁の場合はシステムが少し複雑になっている。これについては，筆者も実際に申込みをしてみて，ようやく理解したのであるが，

① システムから支払申込み
（申込み者のウェブ上の表記名，本名，住所，返金口座等を入力）
② システムから，申込み者用の口座番号を発行
（一つの口座ではなく，申込みごとに別の口座番号を発行）
③ 指定の口座に，申込者が振り込み
④ 口座への振込みを確認すると（READYFOR側）
プロジェクトページに反映

となっている。申込者数が多い場合には，口座を固定すると，確認作業が煩雑になるための処理方法かと思われる。

問題は，普段はインターネットを使わず，インターネット上での支払いに不慣れな層への対応であった。資金はREADYFORのシステム上で管理することが前提となっているが，そのためには別途返金口座を確認した上で，システムに代理入力し，口座情報を発行，支援希望者へ通知するなどの方法をとることが必要になる。かなり複雑な手続きをとる必要があった。プロジェクト開始時点では，現金による寄付が何件もあるとは想定していなかったのだが，結果から言うと，現金による支援が金額ベースでは一割を超えた。なお，ファーストゴールを達成し，All in型に移行後であれば，返金は発生しないため，手続きもある程度は省略可能かもしれない。

また，新聞記事ではプロジェクトページのURLのみを掲載してもらったが，問い合わせ先の電話なども掲載してもらうべきであったと反省している。記事を見て，大学本部に電話し，そこから回りまわって，ようやく担当者まで電話がまわされてきたという例もあった。

振り返ってみると，READYFORのアドバイスはよく当たっていた。ノウハウはREADYFORのページでも公開されている[7]。プロジェクト前には半信半疑の状態だったが，プロジェクト終了後に振り返ってみると，よく考えられたものであることがわかった。

以下はREADYFORが強調していたポイントであるが

・公開前からの広報活動
・新着情報は活動のプログ
・キックオフで勢いをつけるために関係者に働きかけ
・一対一での個別メッセージ
・カウントダウン投稿

今回のプロジェクトでは公開前に，ほとんど広報ができなかったが，他のポイントは確かに効果があったように感じている。一対一の個別メッセージも効果があった。コンプライアンスの関係もあり，取引先の業者への声掛けは難しかったが，最近の図書館見学者には交換した名刺を頼りにコンタクトした。確かに効果があった。

一方でSNS等のインターネット上の広報を強く推奨されたために，紙媒体を後回しにしてしまったのは反省点である。クラウドファンディングとはそういうものなのか，と思って鵜呑みにしていたが，漱石というコンテンツの性質を考えると，むしろ紙媒体を優先して検討すべきだったかもしれない。漱石の愛読者には普段はインターネットをあまり利用していない，比較的年配の方も多数含まれていることは，後から考える

7 Readyforサプリ https://readyfor.jp/sapuris（2021/2/3確認）

と容易に想像できることであった。

またプロジェクトページに連絡先を掲示しなかったが，これも漱石というコンテンツの特性を考えれば，電話番号，ＦＡＸ，メールアドレスなども示すべきであったかもしれない。READYFOR によると通常連絡先は掲示しないとのことで，他のプロジェクトのページを見ると確かに連絡先を掲示している例はほとんどなかった。しかし後から考えてみるとコンテンツの特性，プロジェクトの特性については，READYFOR の担当者よりもプロジェクトの実施者の方が理解している。READYFOR のアドバイスを活用しつつ，プロジェクトの中身にあわせた戦略は自分たちで考えることが必要であったと感じている。

プロジェクトの時期は，今回は大学の業務提携のキックオフにあわせることとなった。READYFOR からは，特に支援が集まりやすい季節というようなものはない，とのことであった。しかし懇談会やホームカミングデイのようなイベントにあわせた方が face to face のより積極的な広報ができたかもしれない。また例えば 2017 年が漱石生誕 150 年であったが，そのような節目の年にあわせて事業を実施するほうがインパクトもあったかもしれない。

支援者の属性については，支援時に取得するシステムにはなっていないため，はっきりとはわからない。支援時に記入いただいたメッセージから判断するしかないが，大学関係者ばかりでなく，漱石の愛読者がかなり多い印象がある。もっとそこにむけた広報ができなかったのか？という点も反省点である。想いをとどけて支援を募ることがクラウドファンディングのコンセプトとのことだが，漱石を愛する人々はもっといたのではないか，想いを届けきれなかったのではないか，と感じている。

結果としての収入収支は以下のようになる。

表 1. 支援額の内訳

| 費目 | 内訳 |
|---|---|
| 支援総額 | 4,687,000 |
| READYFOR 社手数料（15%）<br>＋消費税 | -773,355 |
| －東北大学手数料（10%） | -468,700 |
| 差引後 執行額 | **3,444,945** |

手数料が 15％＋消費税分が引かれるため，かなり目減りしているように感じるかもしれない。しかし READYFOR のシステムは非常に使い易いものであったし，プロジェクトページの修正の対応なども迅速であったので妥当な金額と考えている。

## 6．返礼

返礼品の発送も相当な作業量であった。学習支援係で実施したが，ポストカード等の既存のオリジナルグッズ類は３月までに発送した。オリジナルグッズは既存の販売中のグッズを活用したが，対価性があるものは望ましくないので，セットをバラバラにした上で組み合わせて，クラウドファンディング用のグッズセットを作成した。

図書館特別利用証発行については，デザインもさることながら，少ロットのプラスチックカードをいかに安く作成するかで，いろいろ苦労があった。また発行するために，附属図書館の利用規則の改正も行なった。

漱石自筆資料画像ディスクは，2020 年 12 月に作成，発送した。DVD8 枚セットで，トータルで 200 枚をこえる枚数となったが，コストを抑えるために，外注せずに学習支援係内で作成した。しかしディスク容量ギリギリまでデータを焼きつけたためか，一部の環境では読み取れない場合が生じてしまった。そのための対応も，かなりの作業量となってしまった。

展示会は当初は 6 月に予定していたが，新型コロナウィルスの影響で延期とした。その後も，展示会という形式ではなく，個別見学なども含めて調整をしたが，なかなか開催は難しい状況である。オンライン開催も含めて検討継続中である。また特別報告会も同様に開催にむけた検討を継続中である。

領収書は本部の基金係が発行し送付した。それにあたっても，幾つか例外的事例があり，名簿確認も連携しながら行った。名簿はリターンの送付先であるが，税控除のためには住民票の住所と領収書の住所が一致している必要があったためである。

以下はコースごとの支援者の人数である。返礼品を表記せずにプロジェクト応援コースとしているものは，返礼品を設定していないコースである。返礼品不要の支援者が思ったより多かった。

表 2. 返礼品の発送数

| 支援額 | コースの内容 | 人数 |
|---|---|---|
| 3,000 円 | 3000 円コース（サンクスメール） | 74 人 |
| 10,000 円 | 漱石の肉筆を後世へ！プロジェクト応援コース | 23 人 |
| 10,000 円 | 1 万円コース（漱石文庫オリジナルグッズ） | 75 人 |
| 30,000 円 | 3 万円コース（漱石文庫オリジナルグッズ） | 9 人 |
| 50,000 円 | 漱石の肉筆を後世へ！プロジェクト応援コース | 2 人 |
| 50,000 円 | 5 万円コース①（特別展示会ご招待 + 漱石文庫オリジナルグッズ） | 6 人 |
| 50,000 円 | 5 万円コース②（漱石自筆資料画像ディスク + 漱石文庫オリジナルグッズ） | 20 人 |
| 100,000 円 | 漱石の肉筆を後世へ！プロジェクト応援コース | 2 人 |
| 100,000 円 | 10 万円コース①（特別展示会ご招待 + 漱石自筆資料画像ディスク + 貴重書図録 + 漱石文庫オリジナルグッズ） | 1 人 |
| 100,000 円 | 10 万円コース②（図書館特別利用証 + 貴重書図録 + 漱石文庫オリジナルグッズ） | 4 人 |
| 300,000 円 | 30 万円コース（特別報告会 + 特別展示会 + 画像ディスク + 図書館特別利用証 + 貴重書図録 + オリジナルグッズ） | 2 人 |

※1人で複数口申込の場合は1人とカウント

## 7．撮影作業

プロジェクトとしては，支援募集期間の方が目立つが，本当のプロジェクト実施は募集が終わってからである。

撮影作業も，新型コロナウィルスの影響を大きく受けた。キャンパスへの入構制限のため，撮影作業も大きく遅れることとなった。

図 4. 撮影風景

平成 9 年に『漱石文庫マイクロフィルム目録』を刊行しており，今まではこの目録が資料閲覧のための基本ツールとなってきた。これはタイトルが示すようにマイクロフィルムの目録であり，仙台市のマイクロフィルム撮影事業にあわせて作成したものである。これにより，研究者はもちろん，図書館職員にとっても情報提供や資料管理の効率が格段にあがった。目録で見たい資料を確認し，番号からフィルムにあたって画像を閲覧，必要であればその場で複写するという手順での提供が可能となった。しかし，その一方で，この目録には改善すべき点もいくつか残っていた。スペルなどの記述ミスや，複数の断片資料が「断片」という名目で 1 タイトルとしてカウントされ，一括でまとめて登録されていることなどであった。また書簡や俳句などのマイクロフィルム撮影事業後に新たに受け入れた資料は対象外であった。今回の事業では，貴重書係で，自筆資料全点について，目録データと突き合わせを行い，一点一点の状態も確認し記録した。相当な作業量であったが，目録を修正できたことは大きな成果であると考えている[8]。

その次のステップの蔵書の書き込み部分については，もともとの量が膨大であり，セカンドゴールでもすべてのデジタル化は困難であった。「旧蔵書に残された漱石の肉筆をどのようにして伝えるか？」を考えた際に，当初は調査の上，リストアップし，可能なものは撮影する，という方向で考えていた。しかしコロナ禍でキャンパス入構が制限されていることから，現物を確認しながらのチェック作業は極めて困難であった。そのため，既存のマイクルフィルムのデジタル化と公開・発信に方向に変更し，マイクロフィルムのデジタルコンバート機器を購入した。また特に重要な蔵書 1 冊（The works of Shakespeare. (5)The tragedy of Hamlet）をデジタル化した。蔵書の書き込みについては，蔵書本体の著作権は漱石自身にはなく，ライセンスを確認してから公開ということになるが，今後粛々と進めていきたい。マイクロフィルムからデジタル化した画像は，解像度は高いがモノクロである。高精細・カラーでのデジタル化の希望があった場合に対応できる体制を整えていきたい。

撮影した画像を公開するプラットフォームについて

8　詳しくは本号別稿の以下
菊地良直 . “ 近現代の大量一枚もの資料の保存手当てについて：漱石文庫を例に ”. 東北大学附属図書館調査研究室年報 . 2021, 8, 55-66.

は，当初の予定では IIIF に対応した次期 JAIRO Cloud のデジタルアーカイブ機能を利用することを予定していた。しかし新サービスへの移行が遅れたため，東北大学デジタルコレクションでの公開とした。デジタルコレクションでは，今回撮影した画像のみをまとめて表示する URL を切り出すことができず，検索方法を案内するのにとどまっている[9]。また二次利用についてもできるだけオープンな形での条件設定をしたいと考えているし，そのための準備を進めているところである。

図 5. 東北大学デジタルコレクション

最終的な支出内訳は以下である。

表 3. 支出内訳

| 費目内訳 | 金額 |
|---|---|
| 自筆資料電子化 | 1,865,600 |
| 蔵書電子化 | 74,800 |
| マイクロコンバート機器一式 | 1,312,850 |
| 消耗品 | 191,695 |
| 合計 | 3,444,945 |

## 8．おわりに

クラウドファンディングは，当館としても大きなチャレンジであったが，多額の支援をいただき，担当者としても，とてもありがたく感じている。

まずは漱石文庫のデジタルアーカイブ化を大きく進めることができたことが成果である。

それに加えて，広報効果は非常に大きかった。募集期間終了後にも，新聞やテレビ等で漱石文庫について何度かとりあげてもらった。クラウドファンディングでなければ，ここまで広くとりあげてもらうことはなかったであろう。

漱石文庫のデジタル化のような事業については，公的助成でやるべきではないか？という意見はある。直接メールでそのような意見を頂いたこともある。その意見ももっともだと思う。しかし，そもそもの資金の流れを考えると，公的助成では

①納税者→②税金→③財務省→④文科省→⑤図書館

という流れである。このフローでは，自分の支援が実際にどのように使われているのかは分かりにくい。

しかしクラウドファンディングの場合は

① 支援者→②寄付→③図書館

とショートカットすることで，支援がダイレクトかつ目的が明確になる。実施した感想として，支援者（パトロンと言うべきかもしれない）との距離が近いので，図書館の事業に対する様々なコメントを貰えるし，また支援者へのフィードバックも直接的にできる。これは新たな社会貢献の方法だと感じた。もちろん，厳しいコメントも覚悟しなければならないが。

支援者からのメッセージには日々励まされるものがあった。図書館スタッフとして，利用者の方々との間には，日常的にカウンターでの対応や書面での申請手続きなどの事務的なやりとりがあるが，しかし，ポジティブなコメントを直接いただく機会は意外と少なく，むしろクレーム等のネガティブなケースの方が多い。今回のクラウドファンディングではメッセージを読むたびに「チャレンジして良かった」と感じた。様々なメッセージは，とても嬉しく，そして参考になるものであった。

そしてもう一つの成果と言うべきものが，プロジェクトページである。READYFOR からは，クラウドファンディング事業修了後もページを活用してください，との事であった。このページに新着情報を追加すると，今回の支援者へメッセージが送られるシステムとなっている。今回のプロジェクトでは新着情報として，寄付受付期間終了後も，漱石文庫に関する様々な情報を集め発信してきた。集めた情報も一つの成果である。今後もこのページを通じて，情報提供を行っていきたいと思う。

（みすみ　たろう，附属図書館情報サービス課
ほりの　ようこ，附属図書館情報サービス課学習支援係
きくち　よしなお，附属図書館情報サービス課貴重書係）

9　https://readyfor.jp/projects/soseki-library/announcements/154350　（2021/2/3 確認）

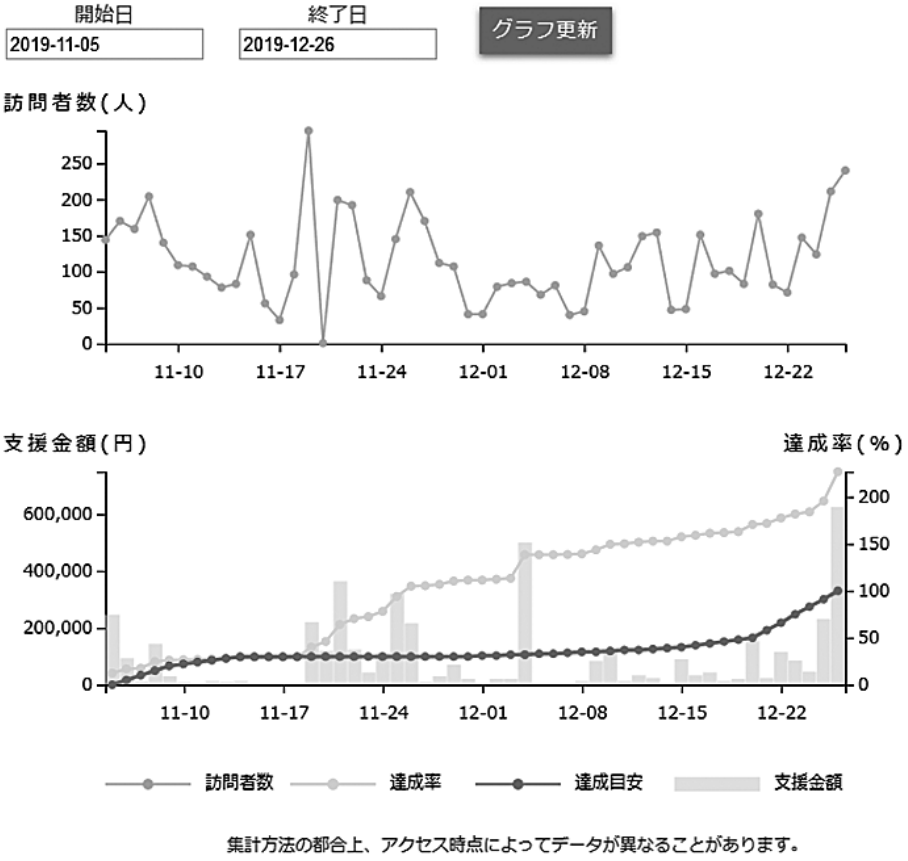


図 6. プロジェクト分析ページ

表 4. 主な広報事項

| 掲載日 | 種類 | 内容 | 引用元 |
|---|---|---|---|
| 11 月 5 日 | プレスリリース | キックオフ記者会見 | |
| 11 月 5 日 | プロジェクトページ新着 | 執筆にあたり登場人物について記載のある『明暗』覚書き | |
| 11 月 5 日 | プロジェクトページ新着 | 草枕に文学観が通ずる 東西文学ノ違 | |
| 11 月 5 日 | Web | PR TIMES1325.html | |
| 11 月 5 日 | Web | ZDNet Japan | |
| 11 月 5 日 | Web | Infoseek 楽天 NEWS | |
| 11 月 5 日 | Web | ＣＦ：ＮＡＶＩ | |
| 11 月 5 日 | Web | 国会図書館カレントアウェアネス・ポータル | |
| 11 月 6 日 | Web | 教育情報サイト eduon! | |
| 11 月 6 日 | Web | ICT 教育ニュース | |
| 11 月 6 日 | プロジェクトページ新着 | 作家の伊集院 静氏より応援コメントをいただきました。 | |
| 11 月 7 日 | プロジェクトページ新着 | 脚本家の内館 牧子氏より応援コメントをいただきました。 | |
| 11 月 8 日 | Twitter | 香日ゆら | |
| 11 月 8 日 | Twitter | まなびのめ | |
| 11 月 9 日 | テレビニュース | 仙台放送にて放送 | |

| 掲載日 | 種類 | 内容 | 引用元 |
|---|---|---|---|
| 11 月 11 日 | プロジェクトページ新着 | 仙台放送のニュースでご紹介いただきました！ | |
| 11 月 12 日 | Readyfor | 松竹大谷図書館プロジェクトページ | |
| 11 月 13 日 | プロジェクトページ新着 | 「漫画家の香日ゆら氏より，応援コメントをいただきました！」 | |
| 11 月 14 日 | Web | 株式会社官庁通信社 | |
| 11 月 15 日 | Twitter | 香日ゆら氏 | |
| 11 月 18 日 | プロジェクトページ新着 | 「漱石研究者の木戸浦豊和氏より，応援コメントをいただきました！」 | |
| 11 月 18 日 | プロジェクトページ新着 | 「朝日新聞でご紹介いただきました！」 | |
| 11 月 19 日 | 新聞掲載 | 朝日新聞朝刊 | |
| 11 月 19 日 | Web | 森井書店バナー | |
| 11 月 20 日 | Web | Kappo( 仙台闊歩 ) \| 大人のためのプレミアムマガジン | |
| 11 月 20 日 | Web | 東北大学トップページにバナー | |
| 11 月 20 日 | プロジェクトページ新着 | 【ENGLISH】How to support this project with Credit Card | |
| 11 月 21 日 | プロジェクトページ新着 | 「手帳④」 | |
| 11 月 23 日 | チラシ配布 | 三遊亭圓朝生誕 180 年記念「漱石と圓朝」でチラシ配布 | |
| 11 月 25 日 | プロジェクトページ新着 | 【資料紹介】正岡子規「七艸集」（漱石と初めて署名） | |
| 11 月 26 日 | プロジェクトページ新着 | 「【展示】「夏目漱石－その魅力と周辺の人々」（2017 年開催） | |
| 11 月 27 日 | プロジェクトページ新着 | 【目標達成】ご支援ありがとうございました！ | |
| 11 月 28 日 | プロジェクトページ新着 | セカンドステージのご案内 | |
| 11 月 29 日 | メールマガジン | 東北大学メールマガジン | |
| 11 月 29 日 | 広報誌 | まなぶひと | |
| 12 月 4 日 | Twitter ＋ Web | 東北大学新聞 by 報道部 | |
| 12 月 5 日 | メーリングリスト | 文学研究科同窓会 | |
| 12 月 6 日 | Web | 漱石山房ウェブサイト掲載 | |
| 12 月 6 日 | プロジェクトページ新着 | 12 月 9 日は漱石忌です | |
| 12 月 8 日 | 新聞掲載 | 河北新報掲載 | |
| 12 月 9 日 | プロジェクトページ新着 | 漱石忌と九日会 | |
| 12 月 11 日 | プロジェクトページ新着 | 漱石，はじめてのハムレット | |
| 12 月 12 日 | プロジェクトページ新着 | あと 2 週間！（300 万円超えました，ありがとうございます！） | |
| 12 月 13 日 | プロジェクトページ新着 | リターンノ紹介その一 ( 終了まであと 13 日） | |
| 12 月 13 日 | Twitter | 青山ゆみこ新刊『ほんのちょっと当事者』 | |
| 12 月 14 日 | 新聞掲載 | 読売新聞（宮城県版）掲載 | |
| 12 月 14 日 | チラシ配布 | 日本文芸研究会 | |
| 12 月 15 日 | チラシ配布 | 「ミュージアムユニバース～すてき・ふしぎ・おもしろい～」にて配布 | |
| 12 月 15 日 | Twitter | 芸能ニュース暁 | 朝日新聞デジタル |

| 掲載日 | 種類 | 内容 | 引用元 |
|---|---|---|---|
| 12 月 15 日 | Twitter | 古典のいぶき | Yahoo headlines（河北新報） |
| 12 月 15 日 | Twitter | 芸能ファイト！ | 朝日新聞デジタル |
| 12 月 16 日 | Twitter | 文学通信 | 河北新報 |
| 12 月 16 日 | Twitter | ステラビジネスサポート | 河北新報 |
| 12 月 17 日 | Twitter | 知識情報・図書館学類 @ 筑波大学 | 河北新報オンラインニュース / ONLINE NEWS |
| 12 月 18 日 | Twitter | 夏目漱石 | 河北新報 - Yahoo! ニュース |
| 12 月 18 日 | | 書店・出版・図書館ニュース bot | 河北新報 |
| 12 月 18 日 | プロジェクトページ新着 | 河北新報と読売新聞でご紹介いただきました！ | |
| 12 月 19 日 | プロジェクトページ新着 | リターンの紹介その二（あと７日となりました！） | |
| 12 月 20 日 | Twitter | 夏目漱石 bot「虞美人草」 | 河北新報 - Yahoo! ニュース |
| 12 月 20 日 | プロジェクトページ新着 | リターンの紹介その三（あと６日！） | |
| 12 月 20 日 | メールマガジン | 東北大学メールマガジン号外（クラウドファンディング特集号） | |
| 12 月 22 日 | プロジェクトページ新着 | 漱石研究家・本学名誉教授仁平道明氏より応援いただきました | |
| 12 月 23 日 | プロジェクトページ新着 | 【あと三日です！】漱石とクリスマス | |
| 12 月 24 日 | Twitter | 香日ゆら | |
| 12 月 24 日 | プロジェクトページ新着 | 【あと二日です！】漱石とクリスマス　その２ | |
| 12 月 25 日 | プロジェクトページ新着 | 【あと一日です！】漱石と蔵書とインスピレーション | |
| 12 月 26 日 | Twitter | 文芸速報 | 河北新報オンラインニュース |
| 12 月 26 日 | プロジェクトページ新着 | 【最終日です！】漱石文庫デジタルアーカイブの展望 | |
| 12 月 26 日 | プロジェクトページ新着 | 【最終日です！】応援メッセージに励まされて | |
| 12 月 26 日 | プロジェクトページ新着 | 【最終日です！】漱石文庫の重み | |
| 12 月 26 日 | プロジェクトページ新着 | 【プロジェクト成立】御支援ありがとうございました！ | |

Twitter については，漱石文庫をキーワードに検索しピックアップした。個人のアカウントと思われるものは上記リストから外したが，河北新報オンラインニュース / ONLINE NEWS をリツイートしたものが多かった。